

希望

チューリッヒ日本人学校便り

平成 29 年 9 月 18 日発行

第 18 号

編集発行 鈴木史良

子どもたちの意識が向上

—— 9月8日実施の地震/火事避難訓練を終えての感想集 ——

先週実施された避難訓練ですが、終了後、各学年の子どもたちが振り返り文を書きました。それに目を通すと、どの子どもも避難訓練を体験し、感じたことをその子なりに一生懸命書いてありました。私たち大人にとって当たり前のことでも、子どもたちにとっては新鮮なことが多いようです。今回が初めての体験であった子どもはもちろん、経験ある子どもでも学ぶことが多くあり、あらためて避難訓練の重要性を感じました。

スイスも地震に無縁ではありません。建物が日本のような耐震構造ではないことも考えると、的確な状況判断が要求されます。



【「ひなんくんれん」をふりかえって】

- さんすうのとちゅうに、いきなりけいほうがなってびっくりした。さいしょにじしん、つぎにかじがくることがけっこうあることをはじめてした。ひなんじょのようすやたべものをはじめてみた。ちゅうがくせいがおてつだいするのをはじめてみた。(小1)
- 前田先生の話でびっくりした。ひなん所では、たたみ一枚分で生かつすることです。となりがしらない人だといやです。なぜかという、よるあかちゃんがないているかもしれないからです。ぼくは、そうじとごはん入れならできそうです。また同じようなことがあったら、もっと上手ににげたいです。(小2)
- わたしは、もし地しんがおきたときには、自分ができることをちゃんとやりたいです。(小3)
- ひなん訓練をして、どこににげればいいかがわかりました。家庭科室で火さいがおこったときは、中学生教室からにげて、中学生教室から火さいがおこったときは、池ににげればよいということがわかった。また、ハンカチをとりにもどってしまったのと、少ししゃべってしまったので、そこに気をつけたいです。(小5)
- ハンカチは訓練の時だけ持っているのではなく、いつも持っていることが大切だと思いました。どこに避難するのかも、どこで起こったのかがわかってから避難することを心掛けたいです。(中1)
- 人数が少ない分、早く逃げることができました。避難中は先生の指示を適切に聞き取るために、しゃべらないようにすることに気をつけたい。いざというときには、自分で自分を守らなければならないので、どこで何が起きたのかをしっかりと理解する必要があると思った。(中2)
- 私の前の学校では、人数が多く避難するのに精一杯だったけれど、この学校ではすばやくできるので、細かい点やもっと注意すべきものに視点がいくので、すぐくためになります。今回、地震から火事の訓練をしましたが、大きな地震が過去に2

つもあるので、とても真剣になり、目の色が変わります。いつでも対応できるよう、これからも真剣に取り組みたいです。(中3)

2階廊下・天井照明の落下について

保護者の皆様には一斉メールでお知らせしたとおり、先週12日(火)の午後12時37分頃、2階廊下天井に設置されていた照明設備(全26m)のうち、半分ほどが途中から折れ曲がるようにして床に落下しました。この照明設備は2年半ほど前に設置されたばかりのものでしたが、金具を天井に固定していたネジが数か所、何らかの原因ではずれたためだと思われます。

このとき廊下に出ていた子どもはありませんでした。ちょうど昼休みに入る時間でしたので、被害を受けた子どもがいなかったのが不幸中の幸いでした。

直ちに施工業者をよび、落下した2階廊下の照明設備だけでなく、安全のため同時期に設置した1階廊下の照明設備も取り外しました。現在は仮照明が取り付けられています。業者には部品が調達でき次第、より強固に取り付けていただくよう強くお願いしました。そして、二度とこのようなことが起こらないよう職員一同、日常の校舎点検を欠かさず、気をつけていきたいと思っております。ご心配、ご迷惑をおかけいたしましたことに、心からお詫び申し上げます。



仮照明が設置された2階廊下

9.22持久走大会に向けて



持久走大会に向け、体育の時間で持久走大会の練習がおこなわれています。走るたびに記録が更新される子どもが多く、自分の記録が伸びるのを励みに、たいへん熱心に取り組んでいます。

中学生の国語の授業で、向田邦子の「随筆」を勉強した後、生徒自身も身近な話題でミニ随筆(160字)を書きました。テーマは『家族の愛情を感じる時』でしたが、持久走練習のことを題材にうまく取り入れた心温まるミニ随筆がありましたので、ここにご紹介いたします。

<ミニ随筆>

私は大の運動音痴だ。運動会の徒競走では万年最下位、マラソン大会でもそうだ。そんな私を両親は哀れと思ったのか、運動の練習に付き合ってくれる。父はマラソンの練習を共にしてくれる。牛と同じくらいの速さの私に合わせて、辛抱強く走ってくれる。母は「J.S.ソーラン」の練習に、毎回付き合っって踊ってくれる。そういうところに、私は家族の愛情を感じている。(中2)



ブッフハルデンヴェーグを走る中学生